

(2026年2月号掲載)

群馬県内企業の防災に関する調査

群馬経済研究所 研究員 大井飛知岐

調査のポイント

近年の大型地震や台風、大雨・洪水などにより、企業にとって防災対策の重要性が高まっている。そこで、県内企業に対して、防災意識、防災の取り組み、事業継続計画（BCP）の策定状況などを調査した。

要約

- 企業における防災の取り組みは、人命の保護や設備の保全を目的とする「防災対策」と、事業の継続・早期復旧を目的とする「事業継続」に大別される。
- アンケート調査によると、県内企業の約8割が自然災害を日頃から意識している一方、実際に対策を講じている企業はその半数程度にとどまった。
- 事業継続計画（BCP）の策定状況をみると、「策定済み」と回答した企業は1割程度であり、BCPの策定は十分に進んでいない状況にある。
- また、自由回答では、「具体的に何から取り組めばよいか分からない」との意見も一定数みられ、防災対策に対する戸惑いがみられた。
- 群馬県が実施している「群馬県BCP策定支援プロジェクト」は、企業の実情に即したBCPの策定を支援するものであり、事業継続に課題を抱える企業にとって有効な施策といえる。